

データの蓄積と共有がもたらす革新と課題

～マテリアルズインフォマティクスを中心に～

日時：2021年9月12日（日） 10：00～16：50

場所：ハイブリッド開催（名城大学&オンライン）

応用物理の研究開発において、近年、データサイエンスの重要性がますます高まっています。このために、データそのものの活用法に加えて、データ収集、データベース蓄積、データセキュリティと流通、データの価値評価が重要なトピックスです。そこで本シンポジウムでは、各分野の第一人者をお招きし、マテリアルズインフォマティクスを念頭に、データの蓄積と共有がもたらす革新と課題について議論します。

【プログラム】

データの蓄積と共有がもたらす学術変革

山地 一禎 (情報研)

データ流通とセキュリティ技術

岡本 龍明 (NTTリサーチ社(米国))

双子のDX：データからWhyの発見へ

大澤 幸生 (東大工)

DICEにおける材料データの蓄積と信頼性

谷藤 幹子 (物材機構)

有機合成のデジタル化

松原 誠二郎 (京大工)

論文からの実験データの蓄積と共有がもたらす革新と課題

桂 ゆかり^{1,2,3}, 熊谷 将也^{4,5,3}, 間藤 智也¹, 安藤 有希¹, 田中 敦美², 坂本 吉宏³,
藤田 絵梨奈², 木村 薫², 津田 宏治^{2,3,1}

(1.物材機構, 2.東大新領域, 3.理研, 4.さくらインターネット, 5.京大原研)

材料研究データの収集・判読化・高付加価値化のワークフローを自動化した
データプラットフォーム

吉川 英樹, 松波 成行 (物材機構)

全自動・自律型物質合成システムを用いた新物質探索と物質データベース構築

清水 亮太 (東工大物質理工)

【世話人】 富谷 茂隆(ソニーグループ)、原田 俊太(名大)、知京 豊裕(NIMS)、
小嗣 真人(東理大)、沓掛 健太郎(理研)